

富山湾で採集されたアミダコの飼育

※1 稲村 修

Rearing of the pelagic octopod *Ocythoe tuberculata* from Toyama Bay

※2 Osamu INAMURA

はじめに

アミダコ *Ocythoe tuberculata* Rafinesque はアミダコ科に属する浮游性のタコで、外套膜の背面に網目状の肉質綾があり、その交点が棘状になっているのが大きな特徴である。本種は世界の暖海のほぼ全域から知られているが、富山湾での記録はみられない。

今回、生きた状態で入手することができ、短期間ではあるが飼育を行った。その様子と併せて魚津水族館にある過去の未発表記録を報告する。

過去の記録

当館にある過去の記録は下記の3例である。

- ①1985年11月3日 魚津市青島沖で仁光丸（魚津市）の刺網にかかる。水深約60m。死亡個体。雌。標本は魚津水族館で保管。
- ②1985年11月5日 富山市岩瀬の富山港赤燈台付近の海面に浮いていた個体を、夜釣りをしてきた人が採集し電話連絡をしてきた。外套にトゲが多数あることと体重が約2kgということから、アミダコの雌と判断したが実物は確認していない。採集時は生きていたとのことであった。
- ③1989年12月17日 魚津市青島沖で仁光丸（魚津市）の刺網にかかる。水深約10～15m。死亡個体。雌。標本は魚津水族館で保管。

飼育個体

1991年12月19日の16時頃、当館前の海岸（魚津市三ヶ）にある離岸堤の内側で、水面に浮いて泳いでいた個体を小室 悟氏（黒部市）が採集し当館に持ち込んだ。

飼育後死亡した時点の測定では（写真1）、体重2.7kg、外套長（背面）220mm、外套長（腹面）210mm、全長600mmであった。標本は魚津水族館で保管。

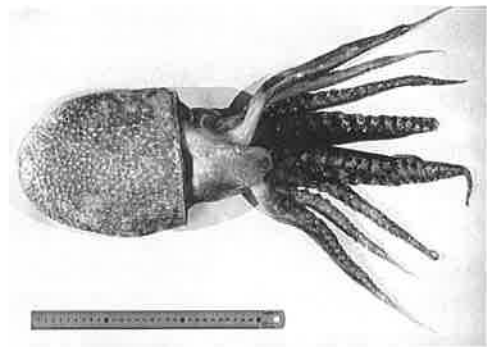


写真1 死亡個体

飼育状況

持ち込まれた個体は20ℓバケツ内で墨を吐いていたので、数度の水替を行った後、展示水槽（高さ650mm×幅1150mm×奥行550mm、水量0.4t）に收容した。水替時にも多量の墨を吐いたが、その後、水槽内で墨を吐くのは見られなかった。

水槽内での様子は、水槽の隈で体を縦にして壁面にくっついていたり（写真2）、水面で腕をそらせてボール状になっている様子（写真3・4）が見られた。壁面から壁面へ腕を使って移動したり、漏斗から激しく水を吹き出して泳ぐ様子も見られたが、多くの場合は腕の一部を壁面に付けた状態で定位していた。また、水面近くで外套の一部を水面から出している時と全身を水中に沈めている時があったが、弱った時や死亡時には底に沈んでいた。飼育状況や気付いた点を次に記す。

※1 魚津水族館（富山県魚津市三ヶ1390）

※2 Uozu Aquarium, Uozu, Toyama Pref., 937, Japan.

12月19日

- 17時10分（水温16.5℃） 水槽に收容。

12月20日

- 8時30分（水温14.2℃） 水槽内にヒモ状の糞（直径約5mm、灰色）が見られた。
- 12時30分（水温19.5℃） 冷凍サバー切れ、カタクチイワシ1尾食べる。完全に沈んで壁面にくっついている（写真2）。
- 17時20分（水温15.5℃） 冷凍アマエビを4尾食べる。胴部のみ殻を取り除いた状態で与えたが、頭部の前半分を吐き出す。

12月21日

- 8時30分（水温19.2℃）
- 9時10分 冷凍アマエビを4尾食べる。殻付きで、最初の2尾は頭部もすべて食べたが、3尾目は頭部の前半分を吐きだした。4尾目は殻付きでは食べないので胴部の殻を取って与えたが、尾部と頭部を吐きだした。この後はむき身にして与えても食べなかった。
- 15時40分（水温17.0℃） 弱っていて水槽の底にいる。細長い糞が見られる（直径2mm、赤色）。冷凍アマエビを与えるが、殻付きでは胴部を一口かじって吐き出す。胴部のむき身を4尾分食べる。
- 17時00分 弱っていて水槽の底に沈んでいる。

12月22日

- 8時30分（水温18.0℃） すでに死亡しており、水槽の底に沈んでいた。

ま と め

富山湾での本種の記録は11月と12月にみられ、捕獲された水深も0～60mと表層であった。

水槽内での飼育個体は入槽日から2日目の午前にかけては元気であったが、2日目の午後から弱ってきて、3日目の朝には死亡していた。

入槽日から2日目の午前にかけての飼育水温は14.2～19.5℃の間で変動したが、水温変化にともなって飼育個体の様子が変わるのは見られなかった。

元気な時に外套の一部を水面上に出して、ほとんど動かずに浮いているような状態がよく見られたが、弱ってくると水槽の底に沈むことか

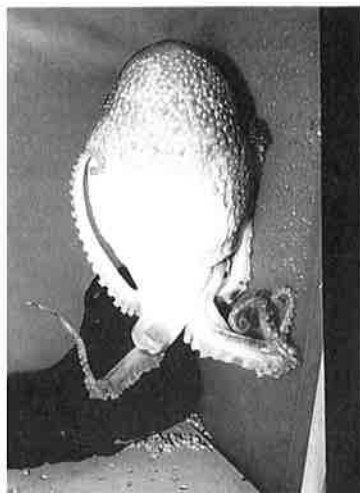


写真2 水槽の隅に付いている状態



写真3 水面上に浮いた状態（側面）

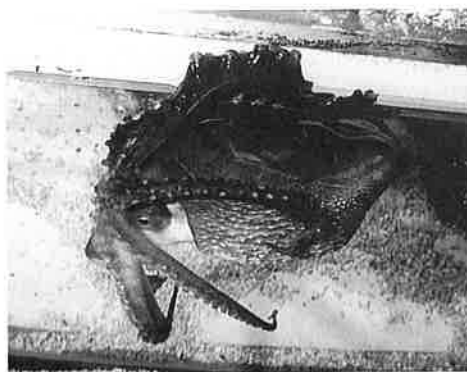


写真4 水面上に浮いた状態（背面）

ら、能動的な浮游機構を持っていると推測される。

飼育中に与えた餌はサバの切り身、カタクチイワシ、冷凍アマエビで、口の近くに持っていくと腕の付け根の吸盤をうまく使って口に押し込んで食べた。

捕獲翌日に太く灰色の糞が見られ、捕獲前に餌を食べていたことが分かる。この糞はサバやホッケを与えたミズダコの糞に似ていた。また、飼育下で冷凍アマエビを与えた後の糞は細くて赤い色をしており、捕獲前と餌の量や質が違うためと思われる。

謝 辞

採集個体を譲っていただいた仁光丸の魚住とき・山崎栄一の両氏および小室 悟氏に感謝申し上げます。また、本稿をまとめるにあたって文献の紹介をいただいた東京水産大学教授奥谷喬司博士と、飼育に関する知見のご教示と文献の紹介をいただいた関西電力宮津エネルギー研究所水族館の西村博之副館長と坂本史子飼育員に深謝します。

参 考 文 献

- 奥谷喬士, 1984. 頭足類の生物学(31)八腕形目の科の特徴. 海洋と生物, 31 (Vol.6-No.2): 97-99.
- 奥谷喬士, 1984. 頭足類の生物学(31)浮游八腕形目の生態. 海洋と生物, 32 (Vol.6-No.3): 180-183.
- 奥谷喬士, 1990. タコらしくないタコたち. 採集と飼育, 52 (8): 328-332.
- Roper, C. F. E. and Sweeny, M. J., 1976. The pelagic octopod *Ocythoe tuberculata* Rafinesque, 1814 Bull. Amer. Malacol. Union for 1975: 21-28.